

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第27号

令和元年11月3日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 壁谷 章 可
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



島根県大田市「土江子ども神楽団」（令和元年度助成先）の『天神』（撮影：令和元年7月）

**令和二年度
「地域の伝統文化の継承・発展活動」
に対する費用助成希望受付開始**

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。令和二年度で三十回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計一二二件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

令和二年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「令和二年度助成申込要領」をご覧ください、お申し込みください。

なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

「申込要領の概要」

「助成対象」

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

「助成の条件」

令和二年度（二〇二一年三月まで）に後継者育成を目的とする諸費用（道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など）の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

「申込手続」

一、提出書類

「申込書」（所定用紙）

「推薦書」（所定用紙）

「活動状況がわかる写真」

「直近の収支決算書（写）」

「参考資料」等

二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

「手続日程」

一、申込期限

令和二年一月三十一日（金）

二、結果発表

令和二年三月下旬（予定）

「選考方法手続」

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

「助成金額」

一、民俗芸能への助成は、

一件につき七〇万円が限度

二、民俗技術への助成は、

一件につき四〇万円が限度

「伝統文化分野選考委員」

委員長 小島美子

委員（国立歴史民俗博物館名誉教授）

委員 天野武

委員（儀礼文化学会名誉会員）

委員 田中宣一

委員（成城大学名誉教授）

委員 田村善次郎

委員（武蔵野美術大学名誉教授）

委員 西角井正大

委員（国立劇場おきなわ運営財団理事）

委員 星野紘

委員（東京文化財研究所名誉研究員）

委員 渡辺行信

委員（当財団評議員）

委員（敬称略）

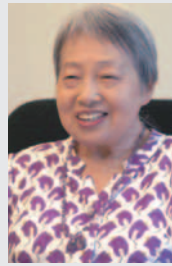
Ⅱ 特別寄稿Ⅱ

出雲には伝統をよみがえらせる力がある

(国立歴史民俗博物館名誉教授)

小 島 美 子

(当財団理事・伝統文化分野選考委員長)



小島美子先生略歴

福島県出身。
東京大学文学部国史学科卒業。
東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。
東京藝術大学講師、
国立歴史民俗博物館教授
江戸東京博物館研究員を経て、現在、国立歴史民俗博物館名誉教授。
専攻は日本音楽史、民俗音楽学。
主な著書に、
『日本の音楽を考える』
『歌をなくした日本人』
(以上、音楽之友社)
『日本音楽の古層』(春秋社)
『音楽から見た日本人』
(日本放送協会)
など多数。

この十年位、秋には友人の上西(うえにし)律子さんと島根県出雲地方に勉強に行っている。出雲は一般に考えられているよりもさらに歴史は古く勢力も強かったと思われる。ヤマトの勢力に「国譲り」する以前は、恐らく中国地方から紀伊半島も含む近畿地方、さらに三重県、愛知県から長野県の一部位までも掌握していたのではないかと私は考えている。それ故ヤマトにとつて一番大きな脅威は出雲だったのだ、古事記では多くを占めている出雲神話を、日本書紀ではほとんど取り上げていないのである。

実際に出雲を歩くと、古代史に出てくる地名が至る所でごく当り前のように使われている。

出雲の幡屋神社の波多野竹彦宮司は、とても研究熱心で愉快な方なので、私たちは教えていただいたり、こちらから少しばかりの智恵を提供したりしている。幡屋神社は元は山の中腹に大きな神社があったのだが、台風でこわれ

てしまい、今は山の麓に余り大きくない神社を建てている。しかし「出雲国風土記」にも記されている古社である。幡屋はことば通りの機屋(はたや)で、織物の神様だが、古くから神への最も大事な捧げ物は絹の布であったから重要な神社である。

出雲の神官さんたちの間では、今の神社神道以前の神道に戻るべきかなどの議論もあるようで、私たちも素人なりに意見を述べたりしている。

また私は神楽の基本である採物(とりもの)の舞(御幣や神、鈴など霊力を持つと考えられているものを手にして舞う舞)は、この頃流行のギリギリした衣装ではなく、神官さんたちが神事の時に着る白い絹の浄衣(じようえ)で舞うべきではないかと波多野宮司に提案してみた。すると彼は、浄衣は電気(か)の明りではなく、ろうそくか篝火(かがりび)の明りの方が美しく映えるといい、それを氏子さん(か)と話して次の祭から実現してくれた。氏子さんたちもそういう相談には気持よくのってくれるいい方たちなのである。私たちは今年も秋の祭にお参りしたいと考えている。

さて出雲ではもう一つ、一般には余り知られていないが、歴史的にも、また一般の住民たちが自ら作り上げ、大切に伝えてきたという意味でも、ひじょうに貴重な祭りに出会うことができた。飯石(いいいし)郡飯南(いいなん)町

頼原(とんばら)の由来(ゆき)八幡宮で毎年行なわれている「姫之飯(い)神事」である。

私たちは地元出版のりっぱなガイドブックなどを参考にあちらこちらの神社を尋ね歩いてきたのだが、その記事の中に大國主命が弾いたコトがあるという伝承をもつ琴引山があった。オオクニヌシはサノオの娘スセリヒメと仲好くなつて、スサノオからさんざん試された後、逃げ出す時、コトも持っていったと古事記には書いてある。だから行つてみようかと二人で勇んでいったものの道がわからないう。それで関係がありそうない。由來八幡宮をお訪ねしてみた。深い森に囲まれた由緒ありげな神社で景山健宮司にお会いすることができた。そのお話によると、この神社の行事の一つに「姫之飯神事」という大変面白い神事があるという。しかも飯南町は出雲の西南端にあつて中国山脈の裾野のようなどころにあるので、県外の研究者は行かないらしく、私たちも二年後によろしくお訪ねすることができた。

この祭は十一月七日午前中に神社で普通の神事が行なわれ、御神体を移した御輿を氏子さんたちがかついで山を降りて町の中を行く。ところが神社とまったく同じ頃、同じように神事を行なっている所がある。これは頭屋(とうや)という神事などのお世話する

組織の今年の当番の所である。頼原地域の十一地区をそれぞれ上中下に分けて三十三組を作り、それぞれの組が三十三年に一回だけ頭屋をつとめればよいという、うまく計算された組織である。だから頭屋に当たった組は、他所に負けないように伝統をしつかりと守り、盛んにつとめることになる。

この頭屋での神事は、十月一日に注連下し(しめおろし)という神事で田の中に御霊代宮(みたましろぐう)という小さな宮を造つて由來八幡宮の霊を迎えてあるのを拝んでいるといわれている。しかしよく考えてみると御霊代宮は新しく稔った稲の霊ではないだろうか。由來八幡宮の霊ならわざわざ新しく稲が稔った田んぼの中に宮を造る必要はないのだから。

それはとに角この頭屋の組では、小さな女の子たちもはなやかに着物や飾り花をつけて腰につけた小さい太鼓を打ち、大人たちは笛を吹いたり大きい太鼓や銅鉦子(どびょうし)を打ったり、すりざさをすつたりして、祭り花を先頭ににぎやかに行列していく。この行列をでんぐくともいうらしい。途中で神社からの御輿と合流して大田神社に行く。これは一時由來八幡宮が移つていた所で、ここでも簡単な神事とかわい二人の女の子の巫女舞、一人で舞う獅子舞が行なわれ、簡単な弁当を食べ、再び行列を作つて

由来八幡宮に戻った。

戻るとすぐ姫之飯神事が始まった。拝殿の中で一段高くなったところが舞殿で、その前面に小俵二つを一組にしたものが三組並べられ、小さな御幣がそれぞれ立てられ、その上に根つきの新しい穂をつけた稲が四把ずつ添えられている。この小俵の中は何だろ、と私たちはつい分考えたが、結局とれたばかりの新米であることがわかった。米つまり稲が霊と考えられているのである。この神事で巫女の役をつとめられている権禰宜（ごんねぎ）の石飛（いしとび）幹祐さんは、稲に神を感じるといわれる。これまでの研究では、この行事全体を田の神が現われると解釈する説が強かったが、そうではなく稲の霊力を何かとても身近かに感じ、稔りを願ったり感謝したりするものとして信じているような感じではないだろうか。つまりいわば稲魂（いなだま）信仰ということだろうが、東南アジアなどでは一般的に広がっているのに対して、日本では田の神信仰が一般的である。改めて考えてみると、稲魂信仰の方が自然で古く、田の神信仰は水田稲作の広がりとともに後に何かの影響を受けたのではないかと私は思う。

さて拝殿奥のまん中には案（机）が置かれ、神酒、初、玄米が供えられ、その下に小さい桶が置かれてヤグサ餅が少し入っている。ヤグサ餅とは

蚕の形に似せて作られた餅である。桶の底には穴があり、甑（こしき）（米や豆を蒸すせいろうのような瓦製のもの）として、後に米を蒸すのに使う。火吹竹と毛抜きと称する細竹を大きいゆるい毛抜き状にしたものの、鏡と称する小さな団扇状のもの、人形（ひとがた）として白い紙を切って竹串に挟んだものが用意されている。

太鼓や笛の音楽が始まると、権禰宜が巫女の姿で登場し、舞殿正面に着座。拝礼拍手し、担（にな）い竹と呼ばれる長さ一メートル位の太めの棒をかつぎ、四方の神を舞って拝み、担い竹の両端に、小俵の上に添えられていた根つきの稲を下げて舞う。次に鏡や毛抜き、人形を持って舞い、さらに火吹き竹を持って舞い、案の上の玄米を甑に入れ、火吹き竹で吹く真似をする。その玄米が蒸されるのを待っているかのように巫女は鏡を見て毛抜きで鼻毛を抜く形をする。古代には鼻毛の長い人（人）は愚か者といわれたという説があり、巫女のおめかしをユーモラスに表しているらしい。次に甑を白に、担い竹を杵にして餅をつく形をし、中からヤグサ餅をとり出して正面の案と前面の三組の小俵の上に置く。これは古代の米から稲への伝統をつなぐ意味があると私は考えている。最後に巫女が小俵の上の御幣を持って舞って終る。この姫之飯神事で重要な

は、実は神へのお供え物である。三膳あり、二ノ膳には魚類や山鳥など、三ノ膳には海産物や野菜、果物がのせられているが、注目すべきは一ノ膳である。玄御供（くろごくう）（玄米の大豆飯）、蒸した里芋、ヤグサ餅、それにカブが添えられている。玄御供は水田稲作以前の古い米（普通よく赤米や黒米で表すが、実はこれらは今でも食べられている）を表している。また里芋は南方のタロ芋の系統で水田稲作以前の重要な主食であった。

三例ある。

こうして見ると、頓原の人々は水田稲作が伝わる前の大事な食べ物と蚕の伝統をひきょうに大切にしてきたことがわかる。この地方に水田稲作が伝わったのは、少くとも二千年以上前のことで、水田稲作以前の伝統をこのように大切にしてきたところは、私たちが知る限り他にはない。「稲の日本史」の著者の佐藤洋一郎氏に伺ってみたが、こういう例は見たことがない、といわれた。

それにしても最初に水田稲作を始めたときは本当に大変だったろうと思われる。その頃の土地は恐らくうっそうとまだほとんど使えず、石斧や



小俵の前に巫女が鏡と毛抜き、人形をもって舞う（撮影：加島美知氏）

木製の道具で切り開き、水を確保して水田として使えるようになるまでには、大変な苦勞があったはずである。そこで実際に米が収穫できるようにになったときには、住民たちは心から喜び、米に霊力があるように感じ、稲魂を喜ばせるために、いろいろな工夫を重ねたのではないかとと思われる。

水田稲作の準備中はもちろん、米が収穫できるようにもなっても、政府に相当な量を納めなければならなかっただろうから、住民たちはやはり古代的な米や里芋を主に食べていたと思われる。また租庸調の調として絹織物を織りつけていた可能性もある。

姫之飯神事を見ると神道や修験道などの影響はほとんど見られず、古代の頓原の住民たちのいわば農民的な発想で素朴な形から作り始め、時代とともに楽しい要素なども加えて現在のようになっている。



巫女が担い竹に稲を下げる（撮影：加島美知氏）

上ったのではないかと思う。それを近現代になっても大切に伝えてきた頓原の住民の皆さんは、本当に素晴らしいと思う。

由来八幡宮は元は多倍（たべ）神社といわれていた。この多倍は恐らく田の部民、つまり田部の意ではないだろうか。そして代々の宮司の方々が八幡宮に変わっても多倍神社の伝統を大切にされ、姫之飯神事に干渉することなく、後から支えてこられたのも大変な見識だったと思われる。また今では数少くなった頭屋制がまだ機能していることも、この芸能を支える力になっっていることも注目しておきたい。

（この姫之飯神事については、本年五月の民俗芸能学会例会で茂木栄、上西律子とともに発表した。）

（景山健宮司は九月十六日に亡くなりました。ご冥福をお祈りします。）

Ⅱ 現地取材レポートⅡ 茨城県古河市 「古河神楽保存会」様を訪ねて

古河市中田地区を訪ねて

今回は、茨城県の古河市中田地区にある「古河神楽保存会」様をお訪ねしました。古河市は、人口約一四万三〇〇〇人。関東平野の中心に位置し西は埼玉県、北は栃木県と隣接します。市域全体がほぼ平坦な地形をしており、古くから渡良瀬川の渡し場として栄えました。二〇〇五年に商業の古河市、工業の総和町、農業の三和町が合併し現在に至っています。

古河市中田地区は、江戸時代の日光街道の中田宿のあった場所、現在では利根川河川敷に相当します。その後、数回にわたる利根川改修工事を経て、現在の中田地区に移転、中田宿の鎮守であった鶴峯八幡宮も河川改修工事のため、町とともに移転されました。



〔鶴峯八幡宮〕

一 古河永代太々神楽の沿革

この神楽は出雲國から伝わり、天の岩戸の前で天鈿命と

手力男命により舞われたとされる「岩戸（磐戸）神楽」の流れを汲み、一二種類の舞から構成されており「十二座神楽」とも呼ばれています。「太々神楽」は「出雲流神楽」の関東地方における呼称。享保十年（一七二五）を起源とし、近郷近在の神職たちにより、五穀豊穡、家内安全、社会安寧のため奉納されたと伝えられています。

享保十三年に奉納舞を始めてから今日まで一度も途切れることなく継承され、昭和四十五年、古河市無形民俗文化財第一号に指定されるなど、現在では地域を象徴する伝統文化となっています。三〇〇年近く経過した現在も、神事として「舞の要領」によって「舞の形」を崩さずに、古儀を大切にしながら、出雲流神楽十二座の舞は伝承されています。

二 古河永代太々神楽の演目

◇一座…幣舞（へいまい）

國常立尊（くにのとこたちのみこと）が、国土を創るべく、四方を固め成す姿を、厳かに麗しく舞います。

◇二座…五行の舞（ごぎょうのまい）

・天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）
・高皇產巢日神（たかみむすひのかみ）
・神產巢日神（かみむすひのかみ）
・字摩志阿斯訶備比古遲神（うましあしかびひこじのかみ）

この神は、天の常立神（あめのとこたちのかみ）の五柱の神、天之御中主神を中心に様々な万物を生み出す姿を舞います。五行の神は宇宙生成の天神五代の神々です。



〔発表会：五行の舞〕

◇三座…諸母（なみなみ）

伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）が、天之御柱を中心に夫婦の契を結ぶところを舞います。

◇四座…翁の舞（おきなのみまい）

思兼神（おもいかねのみこと）が、速須佐之男命の乱暴により岩戸に隠れた天照大御神を、どのように出てきてもらうかを考え、ひらめく姿を舞います。

◇五座…猿田の舞（さるたのみまい）

猿田彦神（さるたひこのかみ）は、天の孫が国を統治する為に地上に降りる際の道案内を、様々な災いを退け、幾多の道を選び進む姿を舞います。

◇六座…墓目の舞（ひきめのまい）

天稚彦神（あめのわかひこのかみ）は、美男子だったと言われています。天の使いとして高皇產巢日神より弓矢を授かり地上に降り、災い邪気を射る姿を舞います。射の名人です。

舞います。射の名人です。

◆墓目の面には「享保十六亥年三月十九日（一七三二）」の墨書があります。茨城県内において年号が確認されている神楽資料の中でも最古のもので、貴重な面です。（古河歴史博物館にて資料として保存する予定であり、当財団からの助成金を活用し代替面を作成）

◇七座…天狐・白狐（てんこ・びやつこ）

稲荷神の使いである、男女の狐様。女狐が田を耕し、男狐が共に仲睦まじく、種を撒く姿を舞います。



〔発表会：天狐・白狐の舞〕

◇八座…正稲荷（しょういなり）

宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）は、狐の撒いた種が麗しく実る事が出来たことを嬉しくも有難く思います。その豊かな稲を刈り取り、天と人々に捧げる姿を舞います。

◇九座…蛭子（ひるこ）

事代主神（ことしろぬしのかみ）は、伊弉諾尊と伊弉冉尊の間に生まれ海に捨てられますが、釣り名人の神になります。魚を釣る様を舞い、途中餌を仕掛けます。その餌を手にした人は福が来るとされます。釣った魚や福を分け与える恵比寿様（えびすさま）と呼ばれます。



〔例祭：岩戸開きの舞〕



〔例祭：尉の舞〕



〔発表会：蛭子の舞〕

◇一座…岩戸開きの舞（いわとびらきのまい）

天鈿女命（あめのうずめのみこと）が、面白く可笑しく優雅に舞い、楽しそうと天照大御神に

◇一〇座…尉の舞（じょうのまい）
天兒屋根命（あめのこやねのみこと）が祝詞（のりと）を奏上し、布刀玉命（ふとだまのみこと）は、占いをしつつ、岩戸に隠れた天照大御神が出てくるよう祈る姿を舞います。

が顔を出した時、手力男命（たちからおのみこと）が一気に力強く岩戸を開く姿を舞います。

◇一二座・大山祇（おおやまつみ）

大山津見神（おおやまつみのかみ）は、三つ目の山の神で、山から健やかな風を吹きおろし、豊かに実った五穀を皆に分け与える姿を舞います。ここで撒く餅を食べると風邪を引かないと伝わります。

三 古河神楽保存会の活動

大正時代に入り舞手の高齢化と後継者不足が深刻になったため、昭和四年に地元有志に依る保存会が結成されました。伝承・保存の努力がなされ、近郷唯一古儀の状態で途切れることなく伝統文化の伝承を行っています。

代表的な年中行事は、古河市雀神社、鶴峯八幡宮の春祭および鶴峯八幡宮の秋祭での奉納舞が挙げられます。その他、古河市内の小学校へ出張して「歴史を学ぶ」と題した体験学習を過去一二回実施するなど、古河市教育委員会等、地元自治体とは常日頃から連携し、必要に応じて良きアドバイスを頂いています。他にも、「夢あんどんと夕涼み」での神楽舞披露や「こが神楽親子教室」などいろいろなアイデアを出しながら、幅広く地域住民に伝統文化である神楽の普及活動を展開しています。

① 鶴峯八幡宮 春の例祭

「古河神楽保存会」の会員や「こが神楽親子教室」で学ぶ小学

生が地域の安寧や五穀豊穡の祈願をするため、舞を演じます。前掲した第一座・「幣舞」から第一二座・「大山祇」までの十二座を約四時間をかけて披露します。



〔例祭：奉納された皆さま〕

② 「こが神楽親子教室」発表会

平成二十八年より、「こが神楽親子教室」が、毎月第二・四日曜日に開催されています。古参の会員が子供たちの指導に当り、日頃の練習の成果を披露する場として年に一回、発表会もあります。令和元年度の発表会が、八月四日（日）古河市内にある三和地域交流センター（コスモスプラザ）で開催されました。

江戸時代の享保十年から伝承する出雲流「永代太々神楽」を子供たちが舞いました。神楽面を着用しない舞もありましたが、出演した子供たちは、大舞台を楽しんでいた様子で、



〔発表会：出演者の皆さま〕

会場に足を運んだ観客の皆さまからも大きな拍手が贈られていました。

③ 「夢あんどんと夕涼み」での舞

八月十四日、十五日の二日間、古河市歴史博物館・古河文学館周辺にて「夢あんどんと夕涼み」が開催されました。古河の夏の風物詩、あんどんの灯りが幻想的です。



〔イベント会場〕

そんな中、古河市歴史博物館エントランスホールにて永代太々神楽が披露されました。



〔夢あんどんと夕涼み：舞〕

④ 「神楽体験」の出前授業

古河市の社会教育関係団体と



〔体験学習授業〕

して、市内の小学校へ出張して「歴史を学ぶ」と題して主に三年生を対象とした体験学習授業をこれまで一二回行いました。体験学習を経験した児童から「こが神楽親子教室」への入会希望者も出ているとのこと。

四 次世代への伝統文化の伝承

「会員の年齢構成は、少子高齢化の影響で六〇代、七〇代が過半数を占め、次世代を担う三〇代、四〇代の若手の育成が急務です」と保存会の高橋博会長は現在の課題点について言及されています。

こうした課題解決のため、前掲した「こが神楽親子教室」（毎月第二・四日曜日）を開催し、地域住民に対し「舞の形」「笛」「太鼓」の指導を行いながら、若い世代の中から少しでも神楽に興味を持つ人々が増えることを期待する取組みに注力しています。

親子教室参加者の中からこれまで四名の方が新たに「古河神楽保存会」の正会員が誕生するなど、伝統文化の継承に向けた好事例が生まれつつあります。こうした地道な活動が、地域全体として伝統文化を大切にする風土づくりに貢献しているようです。



〔「こが神楽親子教室」の皆さま〕

現地取材を終えて

「古河神楽保存会」様の活動の特徴は、会員に向けた活動だけに留まることがなく、地域社会全体を見据えることが、様々な情報を発信することを通じて、子供たちから大人まで幅広い層に地域に残る伝統文化を継承することの大切さを啓蒙していることにあります。

「三〇〇年近くも続く地域の伝統文化を受け継ぎ守る」熱き思いは本物です。衷心より敬意を表します。

伝統ある民俗芸能の継承は、活動資金面や後継者育成において多くの団体が苦勞されているものと拝察します。

これから、現場での取材や伝統文化行事への参加を通じて、当財団が行なっている「地域の伝統文化の保存・維持、後継者育成に対する助成事業」のさらなる高みを目指すことができればと思っております。

「古河神楽保存会」様の今後のますますのご発展と保存会の皆さまのご健勝・ご多幸をお祈り申しあげます。

結びに、本レポートの作成にあたり、高橋博会長、高橋博文鶴峯八幡宮宮司をはじめ、数多くの保存会関係者の皆さまに資料や写真のご提供等多大なご協力をお借りして厚く御礼申し上げます。（財団事務局長 壁谷 章可）

〔参照資料〕

- ◆「古河市史（民俗編）」
- ◆「こが神楽親子教室発表会パンフレット」
- ◆「常陽芸文」（二〇一八年四月号）

寄 稿

島守小子ども神楽の 伝統と継承について

青森県八戸市

島守小学校神楽クラブ

八戸市立島守小学校

校長 一条 秀雄

(令和元年度助成先)

◇八戸市南郷地区と

朝もやの里「島守」

八戸市南郷地区は、青森県東南端に位置し、総面積のうち、耕地率一四・八%の山村の性格の強い地域です。大昔、原始林におおわれ、狩猟を主とした先住民がいたようであり、今なお貴重な石器や土器が出土し、考古学者の注目するところです。

明治二十二年に島守村、昭和三十三年に南郷村となり、平成十七年三月には八戸市と合併し八戸市南郷となり現在に至ります。

南郷地区の中にある島守の里は、四方を山に囲まれた盆地の中にあり、東に臥牛山（がぎゅうざん）といわれる階上岳（はしかみだけ）をながめ、八戸市民の森である不習岳（ならわすだけ）を後ろに、地域の守り神として慕われている福一満虚空蔵菩薩（ふくいちまんこくぞうぼざつ）や龍興山神社、高山神社を前にした閑静にして美しい里です。

平成十二年に島守地区全体が田園空間博物館に指定され、それに伴い「総合情報館朝もやの館」「水辺の楽校」「館のやかた」

「水車小屋」などが整備されています。南郷（島守）朝もやの里では、地域の環境保全や伝統文化継承など、さまざまな活動を続けています。

◇島守神楽の発祥と歴史

島守神楽は八戸市島守地区で伝承される山伏神楽で、岩手県軽米町の金剛院神楽の流れをくみ、今からおおよそ二二〇年前、大蔵院の別当が明治二十年（一八八七）代に始めたといわれています。

昭和三十年（一九六〇）代頃から一時活動を中断していましたが、平成十一年に、約四〇年ぶりに『島守神楽保存会』が発足しました。このことで島守神楽が本格的に再開し、現在に至っています。

島守小学校神楽クラブは、神楽好きだった当時の校長先生が、子どもたちに習わせてみようとして山口牛松さんに指導を依頼して昭和四十六年十二月に結成されました。昭和五十三年には南郷村無形民俗文化財に指定されました。昭和五十四年、六十年には『県民俗芸能発表大会』に出演しました。また、平成十四年には『東北新幹線八戸駅開業イベント』に、平成十八年には、八戸市公会堂で行われた『民俗の夕べ』に出演するなど、さまざまなイベントにも参加してきました。市町村合併に伴い、南郷村から

八戸市となった平成十七年には『八戸市無形民俗文化財』に指定され、平成二十四年には、八戸市教育委員会のもと、島守神楽のDVDも作成されました。

◇島守小神楽クラブの舞

島守神楽では、一一の舞が継承されていますが、このうち、島守小学校神楽クラブでは、「番楽」と「剣舞」の二つの舞の継承を行っています。

「番楽」は、場を祓い清める舞、時間がないときにこの一番ですませてしまおうときの舞、といった説があります。扇の持ち方に変化があるのが特徴です。



『島守春まつり』（2019/6月）

「剣舞」は刀を採物（とりもの）にした舞では、最も基本的な舞です。右手に扇、左手に刀と鞘を直角に交差させながら持つて舞います。最後の番楽拍子になると、右手に刀、左手に鞘を持ちながら舞います。剣をもつて祈願をする舞です。

◇継承活動の内容

神楽の舞は、元は男子のみに継承され、島守小学校神楽クラブでも、当初は四年生以上の男子のみが参加して活動していました。ところが、児童数の減少に伴い、女子の希望者も募集するようになりました。今年度の会員は六年生七名、五年生二名、四年生五名の計十四名で、そのうち女子も五名所属しています。

島守小学校神楽クラブの練習は、出演する行事に合わせて、島守神楽保存会のみなさんご指導をいただきながら行っています。今年度の出演予定は以下の行事です。

○島守春まつり

（六月初旬）

○島守活き生きまつり

（八月中旬）

○島守小学校学習発表会

（十月下旬）

○南郷郷土芸能発表会

（二月上旬）



『島守活き生きまつり』（2019/8月）

練習は、行事前の二週間ほどを中心に、夜六時から七時半ごろまで行われています。子ども



『子どもたちの舞の練習風景』

たちが舞の練習をしている間に、保護者の方々には衣装の着付け方を練習してもらっています。



『島守神楽保存会』の皆さまによるご指導

◇最後に

島守小学校神楽クラブは、島守神楽保存会の指導のもと、地域行事や芸能発表会等で披露するだけでなく、島守神楽の後継者育成の役割を果たしています。この活動は、小学校のクラブ活動としての面と、地域の伝統芸能を伝承する機会としての面との両面性をもち、地域の伝統芸能を継承していく活動を、地域と学校が一体となつて行っています。しかし、児童数の減少、また、島守に住む世帯数の減少により、その運営は大変厳しいものとなっています。このような状況の中でも子どもたちは、古い用具を何度も修繕しながら、練習に励み、地域の伝統芸能の後継者となるべく、日々練習に励んでいます。今後も、年三回の四回の披露を目標として練習を重ね、島守神楽の技術と誇りを身に付けさせていきたいと思えます。そのことが将来、地域の神楽保存会のメンバーとして指導に戻ってきてくれることに繋がると思っています。

寄 稿

下浜三番叟の伝承

兵庫県美方郡香美町

下浜三番叟保存会

会長 清水 雅弘

(令和元年度助成先)

◇はじめに

兵庫県美方郡香美町は、兵庫県の北部但馬地方に位置し、北を日本海に面している町です。今回、助成をいただいた下浜(しものほま)三番叟を伝承しているのは、この日本海に面した香美町香住区下浜という地区です。

香美町香住区は自然豊かな山、川、海に囲まれたふるさとで、特に冬場の松葉ガニが有名で、なかでも下浜区内には三五軒の民宿が軒を連ね多くのお客様が訪れ、冬の味覚を堪能していただいております。

この下浜で毎年十月五日の八幡神社秋季祭礼において奉納されてきたのが下浜三番叟です。

◇歴史

三番叟は香美町内七カ所で伝承されており、その七カ所は「香美町の三番叟」として平成三十年三月に県指定重要無形民俗文化財に指定されました。うち六カ所は香住区内の日本海沿いの集落で伝承されています。この六カ所の三番叟は能楽の流れをくむもので、あと小代区新屋

で伝承される三番叟は歌舞伎の流れをくんでいます。また、香住区内の六カ所についても舞などに少しずつ差異があり、それぞれの地域で独自に伝承されています。

下浜三番叟がいつごろから始まったのかは明らかではありませんが、天保三年(一八三二)に出石藩主から三番叟の面の差出を命じられました(「神作無疑」という理由で差し戻されたという伝承があります。また、下浜の旧家には安永二年(一七七三)の文書が残されており、その文書には「近年不作が続き、藩から禁じられた踊りを再度催したい」と書かれており、この踊りが三番叟のことを指すのであれば、成立は一八世紀後半に遡ることになります。



[黒木尉鈴の舞]

町内の三番叟では一日市(ひといち)三番叟の面に元禄九年(二六九六)の墨書が、訓谷(くんだに)三番叟が伝承される訓谷区には「おどり」の記載がある宝永三年(一七〇六)の区有

文書があります。香住三番叟が伝承される香住区香住の衣装箱には弘化二年(一八四五)の墨書があったと伝わり、香美町香住区では一八世紀には複数の場所で行われていたことが確認できます。

◇下浜三番叟の概要

八幡神社秋季祭礼で豊作や地域の安全・繁栄を祈念して奉納される下浜三番叟は、例年十月四日の宵宮、夜七時頃と翌日十月五日日本宮、昼二時過ぎから下浜区内の帝釈寺境内の薬師堂で披露されます。

三番叟には三人の踏子(ふみこ)(舞い手)が舞台上に上がりま。踏子は千歳(せんざい)、翁(おきな)、黒木尉(くろきじょう)と呼ばれ、三人とも顔に真っ白な化粧を施します。これが香住区に伝わる三番叟の特徴で、下浜三番叟のほか、森、沖浦、訓谷で化粧を施します。



[千歳]

翁、黒木尉はそれぞれ翁面、黒木尉面をつけるため、面の裏側には白くおしろいの跡が残っています。

下浜区では千歳は小学生、翁・黒木尉は高校生以上の未婚者が務めます。まず、カゲが口上を幕内で述

べると幕が開きます。幕が開くとまず千歳が面箱を掲げ、中央に移動し御輿を拝みます。次いで翁、黒木尉が順に出てきて中央で神輿を拝んだ後、翁は舞台右手の座に、黒木尉は舞台裏へ戻ります。「とうとうたたり...」と謡が始まると千歳の舞が始まります。



[翁]



[黒木尉扇の舞]

千歳の舞が終わりに近づくと、翁が面をつけて準備を始めます。千歳が席に戻ると、謡の「あけまきや...」で翁の舞が始まります。翁の舞が終わると、黒木尉の舞が始まります。この時の黒木尉は面をつけずに、扇をもって踊ります。この舞が終わると千歳が鈴を持って舞台下手に立って黒木尉とかけあいを始めます。千歳の「めでたき鈴を...」で鈴が千歳から黒木尉にわたり、黒木尉の鈴の舞はじまります。

下浜三番叟の時間は約一時間三〇分と香美町内で伝承される



[千歳と黒木尉による問答]

三番叟の中でも最も長い時間をかけて舞われます。

◇下浜三番叟保存会について

下浜三番叟の伝承は、近世には地域の若者たちが担っており、青年団によって継承されてきました。しかし昭和四十八年(一九七三)には青年団がなくなり、区(自治会)が中心となり下浜三番叟保存会が結成されました。

保存会の下に実行委員会が組織され、実行委員会には踏子の経験者が入ることとなっています。翁と黒木尉を2年間務めると実行委員会への加入を勧められます。現在、実行委員会は一五名程度で、特に年齢制限は定められていません。

毎年八月中旬に役員が集まり、踏子、鼓、カゲを選定します。九月初旬に役が決まると、九月初旬頃の「決め酒」を経て練習が始まります。練習は祭の本番まで約三週間、夜の七時から九時までは毎日行われます。踏子にはそれぞれ師匠がついて指導に当たります。

この約三週間の間、世代を超えた地域のつながりがさらに深くなり、地域の振興に貢献しています。

寄 稿

幻の反物「島原木綿」

長崎県島原市

島原木綿織保存会

会長 金子 加代子
(令和元年度助成先)

一、発祥と歴史

藍染めの青を基調とした縦縞文様「島原木綿」は、慶長十七年(一六二二)、有明町の勝光寺が建立された際に門信徒から一五〇反の綿布が献上されたとの記録から、四〇〇年余の歴史を持つ織物と言われ、島原半島の北部、特に有明地区・三会(みえ)地区で盛んに織られていたそうである。



〔織り上がった反物 (島原木綿)〕

明治の始めには機械機(ばた)が導入され、家内工業から工場生産へ。島原木綿は丈夫で長持ち、尺も長いと重宝がられた。さらに、久留米の熟練工を招いて、染料の精選と織り上げ技術の習得に務め、「明治三十六年第五回内国勸業博覧会」で総裁賞に輝きました。正藍染(しよあいぞめ)等の質も高く、九

州一円から関西方面、遠くは海外へも輸出されていきました。しかし、大正七、八年頃を頂点に衰退を始め、昭和十六年の戦争勃発による綿糸統制、金属供出等で、一〇〇〇台の機械機は一八〇台余となり、機(はた)の音は途絶えていきました。昭和二十六年、国から二度にわたり綿糸供給を受け、島原木綿協同組合で発足を試みましたが、復興にはいたりませんでした。こうして、織りの世界では、島原木綿は「幻の反物」と言われ、姿を消したのです。

二、復活への取り組み

昭和六十二年、有明町歴史民俗資料館落成の折り、民家の小屋に眠っていた手織機が農機具等と一緒に町に寄贈されました。これを機に、有明町民の間で、「家族総出の木綿引き」「トンパタトンパタの機音」「母や祖母の織り姿」等、過ぎし日の想い出話が広がり、町全体に島原木綿復活への期待感が静かに膨らんでいきました。

そのような中、「有明の歴史を語る会」の会員と資料館の担当者らは、織りの経験者を探し出し、島原木綿の再現を試みたのです。その一人である荒木シズヨさんの、かすかに残る織りの経験と記憶をもとに、集まった小道具や古糸などひとつひとつの機能や役割等を調べ、織りの工程をゆつくりと確認し合い、長い

時間をかけて一反の反物が織り上がりました。一方、有明町教育委員会も、島原木綿の再興に向けて二年間に三期の織り教室を開催しました。

第一期一三名の申込者は、初回はやっと撚り糸(よりいと)をつくるだけ。時間だけが過ぎ、修了式を迎えても器具の名前も覚えられず、四苦八苦の教室だったのです。

その後、二期目、三期目の織り教室を経て、平成二年七月、「島原木綿織保存会」(以下「保存会」)が誕生しました。会員は、久保須美子初代会長のもと、織りの工程を確かめながら、平成の編(しま)に挑戦していきま

平成四年には「第四回手仕事と伝統の全国木綿染織展」に、保存会から初めて六点を出展することができました。当時、二社の新聞に「幻の反物島原木綿復活」と紹介されました。以降、長崎県展の「工芸の部」に出品し、特別賞や新人賞を始め、入選を重ねることができました。中でも、久保会長の作品が「アジア工芸展・福太郎賞」を受賞したことは、会員も含めて大きな喜びで、活動に当たっての会員の自信となりました。



〔100年を超える手織機(たかばた)高機〕

一〇〇年の手織機で織り上げる縦縞の島原木綿を未来に繋げるために、同じ縞を再び織ることのできる秘伝の書「平成の縞

帳(しまちよう)」も作成した久保須美子会長は、平成十一年に長崎県の匠として「長崎の工芸家」に選ばれました。併せて、保存会は「島原半島文化章」「長崎県地域文化章」の栄を受け、平成二十二年には「島原市無形民俗文化財」に指定されました。

三、現在の活動

織りの活動は毎週三回(火・木・土曜日)行っています。織りの命である一七の工程を大切に、工程は一見して分かるようにパネルにしました。

火山国際会議が島原市で開催された折りは、島原木綿で「名刺入れ」や「箸置き」等の作成に協力しました。

世界ジオパークに島原が認定されましたが、島原木綿はジオの産物としての評価を受け、ジオ旅行の方々と島原木綿パネル作成を行いました。島原城復興記念館では、一か月間「島原木綿展」「機織体験・糸巻き体験」等を実施しました。



〔島原市展展示の様子〕

平成三十年の七月八月には、島原木綿織教室を開催しました。一三名の学級生のうち三名

の会員申し込みがあり、現在一緒に活動中です。

毎年二月に行われる有明公民館まつりでは、織体験のために織機二台を準備していますが、好評で列ができるほどです。さらに、日常の參觀申し込みも積極的を受け入れて、島原木綿の啓発に取り組んでいます。

一〇〇年の織機と現代の世の中との繋がりができたと思います。



〔小学生の織体験〕

四、今後の取り組み

令和の時代を迎え、保存会は来年三〇周年を迎えますが、島原木綿継承の活動は、縦縞一本藍模様「織り手の想いを載せること」を目指して織り続けています。

令和の島原木綿は、「丈夫で長持ち」に加え、少し味わいの違う、ふわっとさわやか縦縞も目指しています。そして、織りにかかわる「引き機・整型台・男巻・女巻・菊止め・綜統(そうこう)・緯糸(ぬきいと)・経糸(たていと)・杼(ひ)・踏み木」等々の名称・言葉の自由に使えるようになりたいと思っています。

「人の道と木綿の道は、一歩たりとも間違ふことあてきぬ」との先人の言葉を忘れず、一〇〇年の織機と道具たちに感謝しながら今後も活動を続けて参ります。

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
平成7年度助成(43)		平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユーカラの森 *	北海道	石崎奴保存会
愛媛県	八幡丸運営委員会	青森県	新十津川町獅子神楽保存会	青森県	厚岸かぐら保存会
高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	岩手県	新山権現保存会	岩手県	紙漉沢獅子踊保存会
福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	宮城県	上郷伝統工芸研究会 *	岩手県	七戸町教育委員会
長崎県	館浦須古踊り保存会	秋田県	赤沢芸能保存会	宮城県	白浜剣舞保存会
	大島村盆踊振興会	山形県	宮崎獅子舞保存会	山形県	とよま囃子保存会
熊本県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	山形県	中野七夕保存会	群馬県	今利一郎氏(深山和紙製造)*
大分県	重岡岩戸神楽保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	東京都	岩島麻保存会 *
宮崎県	村所神楽保存会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄) *		説経節の会
鹿児島	佐々木寛治郎氏(手漉き和紙)*	群馬県	大神楽獅子舞保存会	新潟県	秋川歌舞伎保存会
鹿児島	蓬原熊野神社神舞保存会	埼玉県	明覚郷流鏝馬保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	福井県	越前万歳保存会
平成7年度助成(43)		神奈川	大谷芸能保存会	長野県	塩尻市教育委員会 *
北海道	月浦獅子舞保存会	石川県	能登の湯浜式製塩保存会 *	岐阜県	大井文楽保存会
青森県	釧路アイヌ民芸企業組合 *	福井県	花山行事保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
岩手県	沼崎念仏鶏舞保存会	岐阜県	加子母歌舞伎保存会	奈良県	石打太鼓踊保存会
秋田県	小梨芸能保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	和歌山	大島水門祭保存会
	戸沢ささら保存振興会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
山形県	鷹巣町綴子大太鼓上町保存会		二木島祭保存会		島後久見神楽保持者会
	遊佐のアマハゲ保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	兵庫県	福田お幡入れ法伝鼓伝承保存会		金城一國斎後継者池田昭人氏 *
福島県	葛尾村公民館	和歌山	土生八幡神社お頭保存会		西原上十二神祇神楽保存会
栃木県	大沢田太々神楽保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *	徳島県	中村園太夫座人形浄瑠璃
千葉県	佐原囃子保存会		中野神楽保存会	福岡県	加布里山笠保存会
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	広島県	八千代神楽団		新多神相撲保存会
富山県	八尾町曳山保存会	山口県	鷺の舞保存会	長崎県	大村龍踊り保存会
福井県	糸崎寺仏舞保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
	福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
山梨県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		大人歌舞伎保存会
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	平成4年度助成(34)	
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
三重県	深野和紙保存会 *	熊本県	上井出神社奉納楽保存会		長沼町勇獅子舞保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊保存会)	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		上郷伝統工芸研究会 *
	堺式手織段通技術保存協会 *	鹿児島	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
兵庫県	熊野神社裸祭り保存会	平成6年度助成(40)			鷹生郷土芸能保存会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	宮城県	金津七夕祭保存会
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会	青森県	鬼鹿松前神楽保存会	秋田県	大葛金山民俗芸能保存会
	出雲民芸紙工房 *	岩手県	鮫神楽保存会		前山郷土芸能保存会
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会		上郷伝統工芸研究会 *	山形県	押切神楽保存会
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」		石橋鑑剣舞保存会	神奈川	民具製作技術保存会 *
山口県	別府岩戸神楽舞保存会		夏井大梵天神楽保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	宮城県	塩入神楽保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
愛媛県	大江山保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所		一色町能楽保存会
高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		三日月市ワナイ保存会
福岡県	平八月祭り保存会	東京都	西川古柳座	兵庫県	淡河八幡播州音頭踊り保存会
佐賀県	西塩谷面浮立保存会	富山県	五ヶ種チョンガレ踊り保存会		池尻神社人形狂言保存会
	武雄流鏝馬実行委員会	石川県	柏野じょんがら保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会		能登の湯浜式製塩保存会 *	鳥取県	日南神楽 神光社
熊本県	久連子古代踊り保存会	福井県	だのせ祭り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
大分県	丸山俚楽保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会		隠岐いぐり風保存会 *
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会	長野県	日吉御鍛冶祭り保存会	広島県	備後かすり学習会 *
鹿児島	入来麓疱瘡踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会		羽佐竹神楽団後援会
	佐仁八月踊り保存会	三重県	大淀祇園祭保存会	山口県	鷺の舞保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元) *	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	高知県	船戸花取踊保存会
平成8年度助成(43)		兵庫県	青田神楽保存会	福岡県	大分獅子保存会
北海道	留萌岩戸神楽保存会	奈良県	誠謡会	佐賀県	今寺面浮立保存会
	(財)アイヌ民族博物館 *	和歌山	真国御田保存クラブ	長崎県	鷹島町島踊保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	鳥取県	アリエ・クリシヌ *		萩田浮立保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	島根県	赤塚神楽佐義利保存会	大分県	武多都神楽保存会
	平組はしご虎舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会 *	宮崎県	潮嶽神楽保存会
宮城県	武鎗鹿踊保存会		名荷神楽団		杵木白太鼓踊り保存会
秋田県	綴子下町大太鼓保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	鹿児島	三島村八朔踊保存会
	鳥田目番楽保存会				

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
大分県	国東神楽社	京都府	棚倉孫神社瑞饋御輿保存会	平成8年度助成(続き)	
宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	京都府	久多の山村生活用具保存会 *	山形県	西川一座
鹿児島県	伊崎田和紙保存会 *	大阪府	貝塚三夜音頭継承連絡会	福島県	上三坂のやっつき踊り保存会
沖縄県	鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会	茨城県	あんば囃子保存会
	草戸原 前バル原	奈良県	安堵町なもて踊り保存会	栃木県	宗田獅子舞保存会
平成11年度助成(48)		和歌山	高芝の獅子舞保存会	群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会
北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	鳥取県	福栄伝統芸能保存会	千葉県	仁組獅子舞保存会
青森県	穂別町アイヌ民族文化保存会	島根県	民谷神楽団	東京都	ふるさと資料館建設推進委員会 *
岩手県	龍神社法霊神楽保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会	神奈川	仙石原神楽保存会
宮城県	山内神楽保存会	広島県	江波漕伝馬保存会	新潟県	赤玉文化財保存会
宮城県	城生野神楽会	徳島県	高川原勇獅子保存会	富山県	八尾町曳山保存会
秋田県	大沢郷椒沢番楽保存会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会	福野縞の会	
山形県	越沢自治会	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会	福井県	加茂神社上宮の神事
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会 *	福岡県	松尾山松会保存会	山梨県	大久保神楽保存会
茨城県	豊景神社太々神楽保存会	佐賀県	飯田面浮立保存会	長野県	沢登六角堂切子保存会 *
	日枝神社流鏝馬保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ん芸保存会		成就神楽囃子保存会
栃木県	升塚獅子舞保存会	熊本県	中窪田神楽保存会	阿島傘の会 *	
群馬県	奥平神社獅子舞保存会	大分県	野々河内神楽保存会	岐阜県	串原歌舞伎保存会
埼玉県	深作ささら獅子舞保存会	宮崎県	高城町穂満坊あげ馬保存会	愛知県	(財)平野町町政会
東京都	江戸消防彩粋會	鹿児島	徳重大太鼓踊り保存会	三重県	一色町能楽保存会
新潟県	杉野沢民俗芸能保存会	沖縄県	平原利秋氏(ゴッタン・楽器製作) *	大阪府	深野和紙保存会 *
富山県	福光ちよんがれ保存会		泡瀬京太郎保存会		船待神社神楽子供獅子踊り保存会
石川県	上井田獅子舞保存会	平成10年度助成(47)		兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会
福井県	美浜町和田区	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会	奈良県	南都晃耀会
山梨県	中之倉神楽保存会	岩手県	白符荒馬踊保存会	鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会
長野県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	丹内金津流鹿躍保存会		島根県	伝承ホーランエンヤ馬漉櫓伝馬保存会
三重県	曾原かんこ踊保存会	行山流湧水鹿踊保存会		岡山県	川上町渡り拍子保存会
滋賀県	油日神社奴振り太鼓踊り保存会	山伏神楽保存会		広島県	阿刀神楽保存会
大阪府	吉志部神社どんじ保存会	雄物川町岡本新内伝承会		山口県	陶の腰輪踊り保存会
兵庫県	大蔵谷獅子舞保存会	五城目町民俗芸能保存連絡協議会		愛媛県	お簾踊保存会
奈良県	吉野山青年団御田植神事保存会	横岡サエの神保保存会		高知県	遼・三番双保存会
和歌山	小川郷土芸能保存会	平田さしこの会 *		福岡県	流鏝馬武徳会
鳥取県	芦津獅子舞保存会	猿田彦神社大和神楽保存会		佐賀県	蔵上御田舞保存会
島根県	玉若酢命神社御霊会風流保存会	大宮神社獅子舞保存会		長崎県	鬼木鐘浮立保存会
広島県	幸崎町能地春祭保存会	海南神社面神楽保存神楽師会		熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
山口県	数方庭保存会	湯川五社神社伶人会		大分県	天間地区公民館
徳島県	阿波木偶箱まわし保存会	木津豊漁太鼓保存会		宮崎県	広原神楽保存会
香川県	さぬき農村歌舞伎祇園座保存会	若狭町三宅六斎念仏保存会		鹿児島	大の始式保存会
愛媛県	高知獅子保存会	今庄羽根曾踊保存会		沖縄県	柏原区芸能保存会
高知県	長命講伊勢踊	内山柱松保存会			武富旗頭復元実行委員会
	土佐歌舞伎伝承会	若松友志会		平成9年度助成(47)	
福岡県	今津人形芝居保存会	栗谷念仏踊り保存会		北海道	雷公神社神楽会
佐賀県	嘉瀬之浦獅子浮立保存会	老杉神社頭屋行事保存会		青森県	田子神楽保存会
長崎県	森鉦浮立保存会	伊根町立石区		岩手県	行山流都島鹿踊保存会
	西大村浮立保存会	久多の山村生活用具保存会 *		宮城県	嵯峨立神楽保存会
熊本県	樺木神楽保存会	野間出野秋祭り保存会		秋田県	森岳歌舞伎保存会
大分県	高沢組太鼓踊り保存会	多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ		山形県	小田島田植踊保存会
	五馬玉来神社楽保存会	祭文音頭保存会		福島県	北部先囃子若龍会
宮崎県	尾八重神楽保存会	木本八幡宮の御田祭保存会		栃木県	芦沼獅子舞保存会
鹿児島	久留 平氏(太鼓製作) *	円通寺人形芝居保存会		群馬県	沼須人形芝居保存会あけぼの座
沖縄県	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	出雲大社神代神楽波積支部波積神楽団		千葉県	野田津久舞保存会
	平出水太鼓踊り保存会	今田町内会		神奈川	宮城野獅子舞保存会
平成12年度助成(49)		横野和紙工業協同組合 *		新潟県	警女唄ネットワーク
北海道	掛瀬奴保存会	比和町郷土芸能振興会		富山県	越後弥彦手仕事倶楽部 *
青森県	目名神楽会	つるぎ町天の岩戸神楽保存会			八尾町曳山保存会
岩手県	上郷しし踊り保存会	香翠座ゴモ芝居保存会		石川県	小松市歌舞伎愛好会
宮城県	塚沢早池峰神楽保存会	弓削雨乞踊保存会		福井県	和久里壬生狂言保存会
	和瀬法印神楽保存会	西畑人形芝居保存会		長野県	仁科神明宮神楽保存会
秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会	鐘崎盆踊り振興会		岐阜県	新楽舎獅子舞保存会
山形県	沢渡獅子舞保存会	東真手野舞浮立保存会		静岡県	島田帯祭保存会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会 *	嬉野町温泉区面浮立保存会		愛知県	古出来町神社奉賛会
八槻都々古別神社楽人会		黒丸踊保存会		三重県	長太鯨船保存会
		目丸棒踊り保存会		滋賀県	なすび団扇継承保存会 *
		本町虫追い太鼓を考える会			深野和紙保存会 *
					綿向神社雅楽「楽人座」

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
長崎県	滑石竜踊保存会	大阪府	樫井西青年団	平成12年度助成(続き)	
熊本県	菜ノ花会*	兵庫県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	西金砂神社田楽舞保存会
大分県	九州相良古代踊り下免田保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	群馬県	平出歌舞伎保存会
宮崎県	佐伯市宇目酒利獅子保存会	和歌山	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	日進餅つき踊り保存会
宮崎県	下旦祇園囃子保存会こども祇園囃子	鳥取県	江波三番叟保存会	神奈川	NPO法人小田原鋳物研究所*
宮崎県	行藤町白太鼓踊り保存会	島根県	都神楽団	新潟県	城腰花笠踊保存会
鹿児島	六日町ヨイマカ保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会*	富山県	岩瀬まだら保存会
鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	広島県	神根神社獅子舞保存会	山梨県	八朔祭下町屋台保存会
沖縄県	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	山口県	磐門神楽団	長野県	小菅柱松神事保存会
沖縄県	大浜青年会	山口県	郷之崎神楽団	愛知県	大治太鼓保存会
沖縄県	今泊棒術保存会	山口県	山崎八幡宮 本山神事保存会	三重県	能田徳若万歳保存会
平成15年度助成(35)		徳島県	大保じょうれい踊り保存会	三重県	ゆうづる会*
北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	愛媛県	河内口説保存会	三重県	大江羯鼓踊保存会
青森県	大川原の火流し保存会	福岡県	野間獅子連中	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
宮城県	山田大名行列組合	佐賀県	浮羽町石垣保存実行委員会*	兵庫県	さいれん坊主保存会
秋田県	潟船保存会*	佐賀県	佐賀錦振興協議会*	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
山形県	根子番楽保存会	西神野玄蕃一流浮立保存会		山口県	田口水分神社奉讃会
群馬県	吹浦田楽保存会	千代田中部小学校 高志狂言保存会		鳥取県	竹田さいとりさし少年団
千葉県	行田獅子舞保存会	大浦区舟グロー保存会		島根県	追神頭打供盛団
神奈川県	バツパカ獅子舞保存会	菜ノ花会*		広島県	養山八幡の吹囃子行事保存会
石川県	長谷ささら踊り盆唄保存会	相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会		山口県	柳井縞の会*
岐阜県	輪島市本町キリコ奉賛会	産島八幡宮海を渡る祭礼保存会		徳島県	祝島神舞奉賛会
静岡県	数河獅子保存会	板井迫神楽保存会		徳島県	坂州若連中
愛知県	富士宮囃子保存会	虚無僧踊保存会		香川県	ひょうげ祭り保存会
三重県	住吉ちんところ祭委員会	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*		愛媛県	野市町立山獅子舞芸術保存会
滋賀県	本郷「かんこ」踊り保存会	津波古獅子蹴跳保存会*		高知県	川名津神楽保存会
京都府	志那中サンヤレ踊り保存会	那覇市首里汀良町獅子舞保存会		高知県	一の宮万歳保存会
京都府	二箇上区	平成14年度助成(48)		福岡県	吉木芸能保存会
兵庫県	阿良須神社練込保存会	北海道	篠路歌舞伎保存会	佐賀県	立岩浮立保存会
奈良県	魚吹八幡神社武神祭保存会	青森県	入口青年会	長崎県	馬渡区鉦浮立保存会
和歌山	尾山萬歳保存会	岩手県	彦部郷土芸能保存会	長崎県	土井丸浮立保存会
鳥取県	椎出の鬼の舞保存会	宮城県	板用肩怒剣舞保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会
島根県	貴布禰神社獅子舞保存会	秋田県	河南鹿嶋ばやし保存会	熊本県	嵯峨島オーモンデー保存会
広島県	見々久神楽保持者会	山形県	君萱若松神社神楽会	熊本県	福山神楽保存会
徳島県	枝の宮田楽団	東長野ささら保存会		大分県	放生会委員会
愛媛県	つるぎ町一字雨乞い踊り保存会	南陽市古代織りの伝統を守る会*		大分県	北原人形芝居保存会
高知県	佐田岬裂織り保存会*	福島県	白鳥神社太々神楽保存会	宮崎県	伊形花笠踊り保存会
高知県	客天弓祈禱保存会	茨城県	真家みたまおどり保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
福岡県	狩山豊年踊保存会	栃木県	上横倉の獅子舞保存会	沖縄県	下小原八月踊保存会
福岡県	求菩提山お田植祭保存会	群馬県	千本木龍頭神舞保存会	沖縄県	大川青年会
佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	埼玉県	沖内囃子保存会	沖縄県	謝名アヤチ獅子保存会
長崎県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	千葉県	野田津久舞保存会	平成13年度助成(50)	
熊本県	上戸石町自治会	東京都	手作り絹研究会・多摩織部会*	北海道	ペーパン福島踊り保存会
熊本県	西安寺神楽保存会	神奈川県	相模里神楽垣澤社中	青森県	高館駒踊り保存会
大分県	大恩文化財愛護少年団	富山県	諏訪神社獅子舞保存会	岩手県	小袖漁撈唄保存会
宮崎県	唐瀬子供神楽会	福井県	じじぐれ祭保存会	岩手県	湯屋神楽保存会
鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会	山梨県	下市之瀬獅子舞保存会	宮城県	筆甫神楽保存会
沖縄県	いしやなぎら青年会	山梨県	表門神社神楽保存会	秋田県	八沢木獅子舞保存会
平成16年度助成(36)		長野県	木賊獅子保存会	秋田県	福米沢送り盆保存会
青森県	片岸えんぶり組	岐阜県	有道しゃくし保存会*	山形県	ハツ沼大名行列組合
岩手県	田東剣舞保存会	愛知県	伝承知多木綿つものき*	福島県	両原早乙女踊り保存会
宮城県	廿一田植踊保存会	三重県	石上げ祭伝承保存会	茨城県	東金砂神社田楽舞保存会
秋田県	黒川番楽保存会	三重県	野口御神楽保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
山形県	羽黒山松例祭若者衆	三重県	上砥山田楽踊保存会	群馬県	上泉獅子舞保存会
福島県	昭和村からむし織後継者	兵庫県	南光子ども歌舞伎育成会	神奈川	長安寺六字詰念仏講中
福島県	→育成事業実行委員会*	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
栃木県	尾ざく獅子舞保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	福井県	今庄羽根曾踊保存会
群馬県	赤城町古典芸能保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	長野県	湯原神社式三番保存会
千葉県	本納滝之谷獅子舞保存会	岡山県	白明会*	長野県	外倉獅子舞保存会
東京都	むさしのばやし保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	岐阜県	高桑太鼓保存会
神奈川県	三増獅子舞保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	愛知県	金沢歌舞伎
富山県	宮崎神楽保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	三重県	なすび団扇継承保存会*
長野県	和田中神社太神楽保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	三重県	「てんてん」保存会
愛知県	上駒沢祭典保存会	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
三重県	向山神楽獅子保存会	三重県	祖子分面浮立保存会	京都府	天満神社相撲保存会
三重県	水沢お諏訪おどり保存会				

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県	大浦獅子保存会	秋田県	大湯大太鼓保存会	平成16年度助成(続き)	
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	滋賀県	ずいき祭保存会
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排福ばやし保存会	京都府	丹後藤布振興会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野ささら獅子舞保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*
鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会
	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会
沖縄県	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鯨獅子舞保存会	島根県	須佐神楽保存会
平成20年度助成(40)		神奈川県	あつぎひがし座	広島県	小原大元神楽 小原神楽団
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会		南方の万灯保存会
青森県	上十川獅子踊保存会	福井県	舟寄踊保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会
岩手県	都島田植踊保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会
宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	佐賀県	広瀬浮立保存会
山形県	舟渡獅子踊り保存会	兵庫県	仁色長持保存会	長崎県	太田尾地藏祭飾そうめん保存会*
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会		戸根浮立保存会
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区	熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*
	宝積寺白鬚神社雅楽部	島根県	野石谷伝統芸能保存会		下里白太鼓踊り保存会
群馬県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	大分県	荻神社俵楽
埼玉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	鹿児島	入来神舞保存会
東京都	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感應楽保存会	沖縄県	新川青年会
神奈川県	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会	平成17年度助成(37)	
新潟県	他門神楽保存会	長崎県	平島ナーマイドー保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会
	半田神社神楽舞保存会		ききつ船津ペーロン保存会	岩手県	大ケ生山伏神楽保存会
富山県	八口諏訪社獅子舞保存会	熊本県	竹迫観音祭保存下町分会		喜多流大船渡
山梨県	大垣外獅子舞保存会		栖本町郷土芸能保存会	宮城県	新城の田植踊保存会
岐阜県	美濃歌舞伎保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会	秋田県	赤田獅子舞保存会
静岡県	掛塚屋台囃子保存会	宮崎県	熊襲踊保存会	山形県	蔵岡延年の舞保存会
愛知県	六ツ師獅子舞保存会		細野一区輪太鼓踊り保存会	福島県	館早乙女踊保存会
三重県	生桑町長松神社鏡餅奉納会	鹿児島	小島棒踊り保存会		木目沢三匹獅子保存会
	曽原かんこ踊保存会		中間棒踊り保存会	茨城県	日立郷土芸能保存会
滋賀県	篠田の花火保存会*	沖縄県	中城村字津覇伝統芸能保存会	栃木県	三本木獅子舞保存会
大阪府	だいがく保存会	平成19年度助成(39)		埼玉県	辻の獅子舞保存会
奈良県	川西町保田自治会	北海道	寿都松前神楽保存会	千葉県	岩沼の獅子舞保存会
和歌山	ねんねこ祭保存会	青森県	大平大神楽		中野獅子保存会
島根県	岩野原獅子舞保存会	岩手県	法領田獅子踊り保存会		幸田羯鼓舞保存会
岡山県	福石神楽団		羽山神楽保存会	東京都	矢部八幡宮獅子舞保存会
広島県	名字獅子舞保存会	宮城県	浪板虎舞保存会	神奈川	田村ばやし保存会
	五日市芸能保存会	秋田県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	蔵生区自治会
徳島県	後山からくり襖絵保存会	山形県	幸生区・三地区契約会	山梨県	高尾山穂見神社神楽保存会
香川県	流水灌頂法要保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	熊野神社祭囃子保存会
福岡県	下町獅子山保存会		糠塚三匹獅子保存会		桐原獅子舞保存会
長崎県	上原浮立保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会	愛知県	牧野嶋念仏踊り保存会
熊本県	川島神楽連		山本政史氏(日光下駄製作)*	三重県	白塚町通夜譚
	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会	滋賀県	渋川花踊り保存会
宮崎県	入下神楽保存会	埼玉県	下日出谷餅搗踊り保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭込込囃子保存会
鹿児島	前野田植唄民謡保存会	千葉県	八幡神社の獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
沖縄県	船浮民俗芸能保存会	東京都	星竹囃子連	和歌山	春駒保存会
平成21年度助成(42)		新潟県	内島見神楽保存会	島根県	矢上田植ばやし保存会
北海道	大船南部神楽保存会	石川県	ニ所宮獅子舞保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会
青森県	乳井獅子保存会	福井県	長畝日向神楽保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	佐賀県	川内浮立保存会
	村崎野大乗神楽保存会	長野県	山新田太神楽保存育成会		三都区
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会
秋田県	梅内郷土芸能保存会	三重県	矢浜神楽保存会	熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会
福島県	渡戸高野・鯨組	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会	大分県	田原獅子保存会
栃木県	文挾流手岡獅子舞講中	京都府	田山花踊り保存会	宮崎県	川内棒踊保存会
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会	鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会
埼玉県	北袋囃子連	岡山県	栗井春日歌舞伎保存会	沖縄県	天願獅子舞保存会
千葉県	不入斗同志会	広島県	長尾神社湯立神楽保存会	平成18年度助成(37)	
東京都	代々木囃子保存会	山口県	藤生神楽保存会	北海道	元更別大国神社石見神楽保存会
	山田獅子舞保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会	青森県	斗内獅子舞保存会
神奈川	小向獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会	岩手県	豊沢大念仏剣舞保存会
新潟県	羽森神社神楽舞保存会	愛媛県	かぶと踊り保存会		生出神楽保存会
富山県	櫛山獅子舞保存会	高知県	東洋町流鏑馬保存協議会	宮城県	大曲法印神楽保存会

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 愛知県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	鹿島神社郷土芸能保存会 天命鋳物伝承保存会＊ 白瀧神社太々神楽保存会 下小坂獅子舞保存会 飯岡ばやし 日の出会 高井戸囃子保存会 大谷地和紙保存会＊ 蔵王稚児舞の会 加茂神社神事伝承会 向栗崎悪魔払い保存会 多賀区獅子保存会 中之倉神楽保存会 湯原神社式三番保存会 河鹿神社賀喜踊保存会 万足平を考える会＊ 村木神社おまん和祭り保存会 戸木東組かんこ踊り保存会 小野町太鼓踊保存会 深江菅細工保存会＊ 西町獅子舞保存会 田原地区伝統芸能保存会 堅田祭保存会 大浦神社 御調八幡宮花の踊り保存会 上野神楽舞保存会 森藤獅子舞保存会 安田おどり保存会 井原圭子氏(和紙用簀製作)＊ 泉川長者花鳥踊り保存会 植木の三申踊保存会 鳥海浮立保存会 森山本村郷土芸能保存会 東浦白太鼓踊り保存会 北原人形芝居保存会 不土野芸能保存会 土踊保存会 童子八月踊り研究会 豊見城市 高安自治会	熊本県 大分県 宮崎県 沖縄県	栖本町郷土芸能保存会 新町自治会 高木郷土芸能保存会 都城市高城町桜木あげ馬保存会 鳩間民俗芸能保存会	石川県 長野県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 鹿児島 沖縄県	平成21年度助成(続き) 門前とどろ保存会 町区太々神楽実行委員会 高岡道祖神日待占祭保存会 笹間神楽保存会 日下部太鼓保存会 大江羯鼓踊保存会 中堀町自治会孔明祈水山保存会 質美下村区文化財保存委員会 日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会 福住下自治会 八島町六斎念仏講 南道奴行列保存会 江波三番叟保存会 八神神楽団 亀山将氏(足踏み水車の修復)＊ 宇甘神社獅子舞保存会 富士神楽団 特定非営利活動法人赤松煙火保存会＊ 和田雨乞踊保存会 上久原白山宮獅子舞保存会 自然と暮らしを考える研究会＊ 権常寺浮立保存会 竹迫観音祭保存会 黒辺田野白太鼓踊保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)＊ 黒島民俗芸能保存会
	平成25年度助成(42)		平成23年度助成(42)		平成22年度助成(42)
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 新潟県 富山県 石川県 長野県 岐阜県 愛知県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県	上川目神楽保存会 大石虎舞組 二子築館神楽保存会 鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会 釜ヶ台番楽保存会 中獅子踊り保存会 和田神社太々神楽保存会 久保田のおはやし保存会 万町一丁目東自治会 新田赤堀獅子舞保存会 北本宿囃子連 神明社神楽保存会 関下囃子 檜原村春日神社御飼神事保存会 長沢祭典実行委員会 打出青壮年部 串町町内会 間見神社例祭神事保存会 新町お囃子保存会 NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会＊ 愛知・半田・板山万歳保存会 東玉垣唐人踊り保存会 鍋冠祭保存会 御領地車保存会 羽淵獅子舞保存会 吐山太鼓踊り保存会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 群馬県 埼玉県 東京都 神奈川 新潟県 富山県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 島根県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	糠内獅子舞保存会 同心町熊野神社神楽連 外山神楽保存会 熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会 福嶋サイサイ囃子保存会 若宮八幡神社太々神楽保存会 杉沢愛宕神社三匹獅子保存会 美茂呂町屋太鼓保存会 白久串人形芝居保存会 旅名自治会 鹿島流獅子舞引田保存会 諏訪神社崇敬会 川名屋台ばやし保存会 天神林天満宮伶人会 田島自治会 宇波西神社神事芸能保存会 山梨岡神社太々神楽舞子 NPO法人小谷山村留学会育成会＊ 小野八幡神社祭礼運営委員会 東光寺猿舞保存会 中之切奉賛会 立神自治会 周枳民芸保存会 野崎第一地車保存会 淡路人形浄瑠璃青年研究会 神波多神社獅子神楽保存会 出雲國奏楽錬成会 大朝飾り牛保存会 お手廻り保存会 大谷郷土文化保存会 七宝古流本村夫婦獅子舞保存会 佐方獅子保存会 大和太刀踊保存会 ぜんでこ踊り保存会 平八月祭り保存会 南片白区浮立保存会 馬場本浮立保存会 小屋川内獅子舞保存会 重岡岩戸神楽保存会 花木地区郷土芸能あげ馬保存会 西上太鼓踊り保存会 伊平屋村青年団協議会	千葉県 東京都 新潟県 富山県 石川県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県	二ツ森神楽芸能保存会 門中組振興会 佐藤明彦氏(堤人形製作)＊ 冬師番楽保存会 西袋獅子踊保存会 菅波伝統文化継承会 あおき囃子連 河井獅子舞保存会 木崎音頭保存会 三若会 柏合獅子舞保存会 熊野神社神楽保存会 上本郷獅子講中 極立踊り保存会 川根谷内獅子保存会 福島青年親交会 小松尾小屋鶯保存会 玉依比賣命神社 加納まちづくり会(和傘製作)＊ 巖室神社鎮火祭保存会 有松天満社文嶺講 牛蒡祭保存会 志賀神社氏子総代 三ツ松明土行念仏保存会 北野まつり保存会 惣谷狂言保存会 向垣神社祭礼行事保存会 御霊会風流保存会 佐方子供吉備神楽伝承教室 おおたけ手すき和紙保存会＊ 山代白羽神楽保存会 橘だんじり祭り獅子組 北方獅子舞保存会 シットロト踊り保存会 鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会 母ヶ浦面浮立保存会 平島盆踊り保存会
平成25年度助成(42)		平成24年度助成(54)			
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	五戸えんぶり組 門中組振興会 片岸虎舞保存会 山岸さんさ踊り保存会 小室契約会 浪板虎舞保存会 磯草虎舞保存会 大谷大漁唄い込み保存会 長塩谷南部神楽保存会 大室南部神楽保存会 相川南部神楽保存会 有限会社仙台堆朱製作所＊ 秋田万歳保存会 大谷神楽保存会 川原田神楽保存会 新館太々神楽保存会	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	五戸えんぶり組 門中組振興会 片岸虎舞保存会 山岸さんさ踊り保存会 小室契約会 浪板虎舞保存会 磯草虎舞保存会 大谷大漁唄い込み保存会 長塩谷南部神楽保存会 大室南部神楽保存会 相川南部神楽保存会 有限会社仙台堆朱製作所＊ 秋田万歳保存会 大谷神楽保存会 川原田神楽保存会 新館太々神楽保存会		

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6) *印は民俗技術

助成先 平成28年度助成(続き)		助成先 平成27年度助成(44)		助成先 平成25年度助成(続き)	
長野県	影山区	北海道	遠矢神楽舞保存会	和歌山	三船踊り保存会
愛知県	白山神社奉納雅楽舞踊保存会	青森県	甲地神楽保存会	島根県	美保神社神事奉賛会
三重県	牛蒡祭保存会	岩手県	小通芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会
滋賀県	金居原太鼓踊り保存会		槻沢芸能保存会	広島県	錦城神楽団
京都府	福知山市佛性寺自治会	宮城県	三輪流神楽保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会
兵庫県	熊野神社浄舞保存会	秋田県	坂之下番楽保存会	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会
奈良県	龍口獅子舞保存会	山形県	綱木獅子踊り保存会	愛媛県	金栄会
和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」	茨城県	古内大杉ばやし保存会	高知県	四ツ白武士踊り会
鳥取県	大和佐美命神社獅子舞保存会	栃木県	天下一関白流西組獅子舞保存会	福岡県	安武楽保存会
島根県	野石谷伝統芸能保存会	埼玉県	久那獅子舞保存会		豊前小倉織研究会*
広島県	下板木コミュニティー		金鑽神楽永田組	佐賀県	執行分浮立保存会
山口県	むつみ神楽保存会	千葉県	浄土宗西福寺	長崎県	長崎明清楽保存会
徳島県	東辻郷獅子舞牡丹連保存会	東京都	大宮前郷土芸能保存会	熊本県	市房山神宮里宮神社
愛媛県	NPO法人姫だるまプロジェクト*		多摩めかいの会*		長坂なれなれなすび踊り保存会
高知県	日高村太刀踊保存会	神奈川	根府川寺山神社鹿島踊保存会	宮崎県	中野神社神楽保存会
福岡県	元岡祇園ばやし保存会	新潟県	昔かたり春よこい	鹿児島	黒潮太鼓
佐賀県	宮野浮立保存会	富山県	広野自治会	平成26年度助成(44)	
長崎県	横尾だんじり保存会	石川県	神子原壮年団	北海道	美和権現獅子舞保存会
熊本県	東方組太鼓踊り保存会	長野県	日和山神社芸能保存会	青森県	目名神楽会
大分県	岡倉神楽保存会	岐阜県	綾野第三自治会小獅子軸保存会	岩手県	の組菱和会
宮崎県	酒谷地区むらおこし推進協議会	愛知県	知立神楽保存会	宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)
鹿児島	重久神事神舞保存会	三重県	若宮八幡神社北村石取り祭事保存会	山形県	舟渡獅子踊り保存会
沖縄県	友寄獅子舞棒術保存会	滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会	福島県	松岡若連
	崎原克友氏(八重山上布織物技術)*	京都府	玉田神社宮座「森座」	栃木県	日光囃子保存会
平成29年度助成(43)		大阪府	中垣内地車保存会	群馬県	津久田人形操作伝承委員会
北海道	有明獅子舞有志の会	兵庫県	土師獅子舞保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会
青森県	国吉獅子踊保存会	奈良県	篠原おどり保存会		赤沼民俗文化財保存会
岩手県	篠木神楽保存会	和歌山	亀の川念仏踊り保存会		久長元耕地獅子舞保存会
岩手県	平泉流細野念仏剣舞	鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	千葉県	道庭獅子連保存会
秋田県	脇本山車どんど保存会	島根県	三谷神社獅子舞保存会	東京都	八幡囃子保存会
秋田県	亀田大神楽神楽講	広島県	山根神楽団	神奈川	台祭囃子保存会
山形県	岩根沢大々神楽保存会		おおたけ手すき和紙保存会*	新潟県	水沢伝統芸能保存会
福島県	荒獅子保存会	山口県	切山歌舞伎保存会	富山県	加茂神社神事伝承会
栃木県	伊王野下町祭保存会	徳島県	池谷郷土芸能保存会	石川県	内灘町宮坂区
埼玉県	東不動院野神楽保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	福井県	鈴鹿区大太鼓保存会
埼玉県	古久喜獅子舞保存会	福岡県	永井獅子保存会	山梨県	一之瀬高橋春駒保存会
千葉県	熊野神社神楽保存会	佐賀県	浮立・荒踊り保存会	長野県	根神社式三番叟保存会
東京都	清水ばやし保存会	長崎県	命婦の舞保存会	岐阜県	綾野第4自治会綾野祭軸狸々軸保存会
神奈川	野比中村虎踊り保存会	熊本県	仲町の茶わん鉢保存会	愛知県	上名和祭りばやし保存会
新潟県	浦瀬町奏楽保存会		宇土市轟泉簡易水道組合*		東大高祭禮保存会
石川県	柴垣壮年団	大分県	堅浦古典芸能保存会	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
福井県	津島区神楽保存会	宮崎県	神下俵踊り保存会	京都府	出雲風流花踊り保存会
長野県	小市神楽囃子保存会	鹿児島	目手久民謡保存会		NPO法人丹波漆*
岐阜県	関市獅子舞保存会	沖縄県	仲西獅子舞保存会	大阪府	延喜社内社 岐尼神社
静岡県	江浦伝統文化保存会	平成28年度助成(43)		和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*
岐阜県	岐阜和傘プロジェクト実行委員会*	北海道	寿都松前神楽保存会	鳥取県	服部神社獅子舞保存会
愛知県	出川町棒ノ手保存会	青森県	入口青年会	島根県	玉造調理師会
三重県	大淀東区自治会		嘉瀬奴踊り保存会	広島県	山波神楽団
滋賀県	井之口太鼓踊保存会	岩手県	板沢しし踊り保存会	山口県	住吉神社お船謡保存会
大阪府	大東市中垣内自治会	宮城県	赤谷神楽保存会	徳島県	鳴門大風保存会
和歌山	太地町民芸保存会寄水青年同志会	秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	香川県	石切唄保存会
鳥取県	波津神社獅子舞保存会	山形県	清川獅子神楽実行部会	愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会
島根県	深野神楽こども教室	福島県	太田川梅若歌念仏踊保存会	高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会
岡山県	仕組踊保存会 城扇		梅田三匹獅子舞保存会	福岡県	柳川市立柳河小学校
広島県	上河内獅子舞保存会	栃木県	大沢獅子舞保存会		→特別クラブ「子どもどろつくどん」
山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	群馬県	鷺宮太々神楽保存会	佐賀県	川上鉦浮立保存会
徳島県	池谷神踊り保存会	埼玉県	栗生田囃子会	長崎県	東上面浮立保存会
香川県	賀茂神社長床神事保存会		新久はやし保存会	熊本県	熊本新町獅子保存会
福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	千葉県	家之子獅子連郷土芸能保存会	宮崎県	細江神楽保存会
佐賀県	納富分浮立保存会	東京都	森山はやし保存会		風田製糖組合*
長崎県	東浜町一組女相撲保存会	神奈川	田村ばやし保存会	鹿児島	花尾太鼓踊り保存会
熊本県	菊池市下出田、植古閑区	新潟県	小川連中	沖縄県	勢理客区
大分県	三輪流白杵神楽保存会	富山県	岩瀬白山町曳山断方保存会		
宮崎県	麓輪太鼓踊り保存会	福井県	日吉青年会		

平成3年～令和1年 都道府県別伝統文化助成先一覧(7) *印は民俗技術

助成先		助成先	
令和1年度助成(続き)		平成29年度助成(続き)	
石川県	川尻会 獅子舞響	鹿児島	ナゴシドン実行委員会
福井県	高浜七年祭保存会		ヨンシー踊保存会
山梨県	小伏獅子舞保存会	沖縄県	新里民俗芸能保存会
長野県	根神社式三番叟保存会		伊是名区
岐阜県	杉山是清 氏(わらび縄製縄技術他)*	平成30年度助成(43)	
静岡県	伊豆島田区不動尊講	北海道	砂川もちつき保存会
愛知県	勝幡おこわまつり保存会		越中踊り子供保存会
	下門祭礼保存会		留萌岩戸神楽保存会
	鳥原歌舞伎愛好会	青森県	柏木町荒馬保存会
三重県	五ヶ所浦区		八幡崎郷土芸能保存会
滋賀県	古屋六斎念仏踊保存会	岩手県	善楽流獅子舞保存会
大阪府	中佐備町会		大槌城山虎舞
兵庫県	下浜三番叟保存会	宮城県	宮刈田嶺神社附属神楽組
奈良県	紅して踊り保存会	秋田県	鹿角紫根染・茜染研究会*
鳥取県	逢束盆踊り保存会		板戸番楽保存会
島根県	土江子ども神楽団	山形県	致芳地区文化振興会
山口県	末田焼物の里保存会*	福島県	磐梯町 本寺区
徳島県	七成会		門鹿王子神社太々神楽保存会
愛媛県	下吾川獅子舞保存会	栃木県	天下一関白神獅子舞保存会
高知県	大谷花取踊保存会	群馬県	八木原諏訪神社太々神楽舞子会
福岡県	沼楽保存会	埼玉県	金鑽神楽岡部組保存会
佐賀県	龍宿浦面浮立保存会	千葉県	賀茂神社民俗芸能保存会
長崎県	島原木綿織保存会*	東京都	青梅市虎柏神社祭礼行事保存会
	狩立オネオンデ保存会	新潟県	赤塚太々神楽保存会
大分県	玖珠神楽 神祇社	福井県	田井野区(多由比神社伝統芸能保存会)
宮崎県	小川神楽保存会	長野県	野辺町来迎念仏講
沖縄県	志多伯獅子舞棒術保存会	岐阜県	東座歌舞伎保存会
累計助成件数 1,222件		静岡県	東光寺猿舞保存会
		愛知県	藤江神社ハッ頭舞楽保存会
		三重県	田口念仏踊継承会
		滋賀県	黒川花笠太鼓踊り保存会
		和歌山	広川町古典芸能保存会
		鳥取県	秋里伝統文化を保存する会
		島根県	三葛神楽保持者会
		山口県	豊原地区腰輪踊り保存会
		徳島県	信正鉦踊り保存会
		香川県	櫃石ももて祭保存会
		愛媛県	天神花踊り保存会
		高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会
		福岡県	博多鉦製作技術保存会*
			前田の盆踊保存会
		佐賀県	下新ヶ江地区沖ノ島太鼓浮立保存会
		長崎県	正山八ノ川青年団
		熊本県	清源寺神楽保存会
		大分県	山香神楽保存会
		宮崎県	比木神社神楽会
		鹿児島	竹田神社からくり保存会
		沖縄県	松原自治会(獅子舞保存会)
		令和1年度助成(42)	
		青森県	八戸市立島守小学校神楽クラブ
		岩手県	八幡大神楽保存会
		宮城県	秋保神社神楽保存会
		秋田県	大湯太鼓保存会
			仙道番楽保存会
		山形県	鍋田念佛講保存会
		茨城県	古河神楽保存会
		栃木県	大神神社神楽保存会
		群馬県	市祇園囃子保存会
		埼玉県	戸口囃子会
			武甲山御嶽神社里宮太々神楽保存会
			諏訪万作保存会
		千葉県	岩沼の獅子舞保存会
		東京都	榎立太鼓会
		富山県	広野自治会

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(令和元年11月現在) ・音楽分野 523人 9億3,360万円 ・伝統文化分野 1,222件 6億2,947万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社